

全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

平成30年4月に行われた、小学校6年生と中学校3年生を対象にした「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。

○成果が見られた項目 ●課題が見られた項目

国語

○「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解」

少人数教育のよさが生かされていることや、国語で育んだ力を、ふるさと学習のプレゼンテーションやディベート学習で活用していることなどが成果につながったと考えられます。

●「読む能力」「書く能力」

無回答数が多かった「自分の考えを書く力」や「理由を書く力」などを高めるように授業の内容・方法を改善していきます。

算数・数学

○「知識・理解」「技能」

少人数教育のよさを生かし、一人ひとりの習熟度等に合わせてきめ細かな指導を行ってきたことなどが成果につながったと考えられます。

●「数学的な考え方」

なぜ、そういう答えになるのかを、式や短い言葉を的確に用いて論理的に説明する力などを高めるよう、授業の内容・方法を改善していきます。

学習状況調査についての傾向

○「自己肯定感」

「先生から褒められている」と感じている子どもの割合が高くなっています。

●「家庭学習」

宿題を出されないと学習できない子どもが多く、主体的に学習に取り組むことができるように学校と家庭が連携した工夫や働きかけが必要です。

今後の改善策について

- ・育てたい資質・能力を明確にした「飯館型授業スタイル」の徹底を図り、思考力・表現力・活用力などの向上を図ります。
- ・家庭では、「宿題」だけという子どもが多いので、「予習・復習」などに取り組むことができるよう、小・中が連携して取り組んでいきます。
- ・基本的生活習慣を身に付けることができるよう、メディアコントロールなどの「家庭のルール」を決めて、子どもと大人が一緒に取り組めるようにします。
- ・子どもたちの「自己肯定感」をさらに高めるよう、家庭や地域においても、子ども達のよさを見つけ、積極的に価値付けをしていきます。

飯館村は、一人ひとりのよさを見つけしっかりと伸ばしていきます！



岩渕幸洋選手（協発酵キリン）

両足に先天性の障がいがあり、左足膝下に装具を使用してプレー。東京五輪で金メダルを目指しています



パラリンピック学ぶ
11月26日、飯館中学校でリオデジャネイロパラリンピック卓球日本代表の岩渕幸洋選手と飯館中学生の交流会が開かれました。生徒は、岩渕選手からパラリンピックの成り立ちや競技の見どころなどの説明を受け、障がい者スポーツへの理解を深めました。会では、岩渕選手と生徒が対決。回転をかけたサーブなど一流のプレーを披露しました。庄司梨花さん（2年）は「スマッシュが速く、迫力があつた。パラリンピックをもっと知りたいと思った」と笑顔で感想を話していました。



もちつき、ぺったん！

12月6日、深谷有志の会と農協の協力を得て、杵と臼を使ったもちつき会が行われました。園児は、もち米の香り漂うホールで、かけ声をかけながら応援！つきたてのもちをほおばりました。

までいの里のこども園

寒くても、へっちゃら！
げ〜んきな子ども達の様子をお伝えします。



中学生のお兄さん・お姉さん
一緒に遊ぼう！

12月4、5日の2日間、飯館中3年生がこども園を訪れ、保育実習を行いました。園児は中学生と一緒に体操をしたり、給食を食べたりして笑顔を見せて喜んでいました。

生徒は「最初は緊張したけれど、すぐに仲良くなれて嬉しかった」と貴重な経験を振り返りました。

